

下田山塊 大谷ダム～中ノ又山～毛無山

佐貫

【日時】 2009年4月11日(土)～12日(日)

【メンバー】 L佐貫、棚橋

下田・川内山塊の数ある名山のうち、矢筈や青里といったいわば横綱クラスには、残雪期を中心に足を運ぶ人がそれなりにいるようだ。一昨年、昨年と駒形山や裏ノ山のような、横綱を取り囲む閑脇クラスのキラリと光る名峰を沢から訪ね、次にと狙っていたのが毛無山である。どこからも遠く、下田でもある意味最も行き難い頂である。

道の駅・ただ漢学の里で仮眠し、大谷ダムを過ぎて八十里越国道のゲートまで車で入る。以前、鎌倉沢を遡行したときに五兵衛小屋から川胡桃沢出合まで道がついていたことから、今回はそれを使えるところまで使おうと考えた。川胡桃沢出合から右岸尾根沿いにつけられた道をたどり、途中で沢を渡るが、渡った先が少々分かりづらく適当に斜面を登っていくことにした。30分もすると雪が現れたが、大倉沢との中間尾根に上がるところで藪になる。本来のルートよりも下で尾根にのってしまったりしく、あまり踏み跡がはっきりしない。予想以上に時間がかかって、日本平に立ったのは11時20分。比較的近くに見える真っ黒な稜線は光明山だろうか。そして遥か奥に見える端正な形の山が毛無山のようだ。一泊するとはいえ、あんなところまで往復して行くことが出来るのか、少々不安になる。

休憩もそこそこに、まずは五兵衛小屋を目標に雪の落ちた稜線を歩き出す。パッと見には藪やブナ藪の稜線も、記憶の通り一応「道」になっていてさほど通過に困難は感じない。最初の小ピークからの下りはかなり急で、灌木にぶら下がるようにして下りた。五兵衛小屋手前で左側に広がるのは、鎌倉沢の源頭だ。白滝の上は穏やかな溪相に変わり、とても美しいおやかな斜面が「ここで泊まりなよ」と手招きしているようだ。



一応「道」です

ここから一息の登りで、船の舳先のように北に長く延びる山頂を持つ五兵衛小屋である。どうやらここからは雪上漫步になりそうで一安心だが、中ノ又まではまだまだ遠い。何としても今日は中ノ又までは行かないと翌日の行程に差し支えるので、のんびりと景色を楽しむ間も惜しみ再び歩き始める。

左手の沢はこの辺で唯一遡行したことのない砥沢川に変わった。しばらく雪を拾いつつ歩いていくと、急に足元の見えない大岩の上に出た。下がどうなっているか

わからないので、右手の雪斜面をトラバースして巻き気味に下りる。振り返ってみるとモアイ像のような形の大きな岩だった。西から見ると意外にガラッとしている中ノ又山に新鮮な感覚を覚える。ほぼ山頂直下というあたりで斜面を整地して幕とする。歩いている間は重かったが、汗をかいた身体に冷たいビールがよくしみた。



まだ遠い毛無山

日曜日、完全に明るくなるのを待ちきれず出発。中ノ又のピークから懐かしい室谷川本流の源頭を眺めつつ郡界尾根を北に進み始めると、驚くべきことにそこには人の足跡があるではないか。もう余り長くは保ちそうにない雪堤を何とか拾いつつ、ダメになると頂稜に乗り移って毛無山への分岐を目指す。c 1022の先あたりに幕営跡があり、その先の分岐で足跡は裏ノ山方面に消えていった。穏やかな小又川の源頭を右手に見ながら、一旦100m以上高度を下げる。不思議なことに、あるはずがないと思っていた踏み跡が稜線上に続いており、ブナの幹には古いキリツケも見られた。熊撃ちによるものと思われるが、どの地域から足をのぼしているのだろうか。

引き返しの時間を決めながらも、何とか今日、毛無山を踏んでしまいたく、休憩も殆ど取らずに最後の登りにかかる。毛無山の肩は雪が落ちた藪交じりのスラブ帯、灌木を掴んで登ると丸く広がる山頂に出た。やった、毛無山だ。周囲を見渡すと大好きな渋山が次々に目に飛び込んできて自然と頬が緩んでしまう。幸せなひと時。出来ればここで泊まりたいくらいだが、アップダウンが多く帰りの所要時間も不安なため、早々に帰途につく。今朝通ったばかりの雪庇が落ちていた。暑さに苦しみつつ幕場に戻り荷物をまとめる。五兵衛小屋まではまだよいが、そこから日本平までの細尾根は行きよりも大変そうな気がした。ジリジリと照りつける春の陽射しを浴びつつ日本平によるよると近づくにつれ、雪面には新しいトレースが見られるようになった。長靴の足跡もあるので、地元の人々だろうと話す。昨日は無かった新しい鉋目と、下りるに従い増える足跡に助けられて思ったよりもスピーディーに川胡桃沢出合に戻ることが出来た。道には大勢



「昭和 46 年クマトリ」



頂上直下は急な藪

の人が休んでいて、話をするのと熊撃ちに入ったという。狸の尻皮を頂いた上、軽トラの荷台で駐車地点まで送ってくださるという親切に心より感謝。

直前に降った雪と中ノ又から先の踏み跡のお陰で、大ヤブもありかと思っていた



が全く問題にならなかったのは運が良かった。一方で、標高は低いものの細かいアップダウンが多く、しかも距離が結構長かったために時間は予想した以上にかかってしまった。とはいえ土日を目一杯使って歩き、遠い頂だった毛無山に立てたことで、会心の山行となった。そして今回だけのピークハントに終わらず、春の下田・川内を巡る山旅をこれから色々たくらんでいきたいと思う。来年の春が今から楽しみでならない。

【行程】

4/11 駐車場所 (7:35) - 日本平(11:20)-五兵衛小屋(1:3:35)-中ノ又山 (16:20)
4/12 出発 (4:50) - 郡界尾根との分岐 (6:30) - 毛無山 (8:05)-五兵衛小屋 (13:20)
- 日本平 (15:30) - 川胡桃沢出合 (17:05)

【地形図】 光明山、駒形山

【概念図】

